

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 12月 27日

【評価実施概要】

事業所番号	2791700020		
法人名	有限会社 フレンド		
事業所名	グループホームフレンド天王寺		
所在地	大阪市天王寺区味原町15番11号 (電話) 06-6774-5010		
評価機関名	特定非営利活動法人エイジコンサーン・ジャパン		
所在地	大阪市住之江区南港北2-1-10 ATCビル1TM棟 9階		
訪問調査日	平成 21年 12月 15日	評価確定日	平成 21年 12月 29日

【情報提供票より】(平成21年11月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20年 1月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18人
職員数	14人 常勤 14人, 非常勤 0人, 常勤換算 14人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り 3階建ての 2階 ~ 3階部分
------	--------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	78,000 円	その他の経費(月額)	約30,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(700,000円)	有りの場合 償却の有無	有(期間:3年)/無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	600 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成21年11月27日現在)

利用者人数	17名	男性	4名	女性	13名	
要介護1	3名	要介護2	2名			
要介護3	5名	要介護4	4名			
要介護5	3名	要支援2	0名			
年齢	平均	84歳	最低	67歳	最高	100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西村クリニック、喜多岡医院、ひらかど歯科クリニック
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

有限会社フレンドが運営するグループホーム フレンド天王寺は、JR並びに近鉄大阪線、地下鉄千日前線各鶴橋駅より徒歩3分の交通至便な場所にあり、周辺には商店が軒を連ね、マンション、ホテル、病院などが林立する街中に位置している。認知症対応型共同生活介護事業所は、3階建て建物の2階~3階部分にあり、1階には小規模多機能型居宅介護事業所が併設されている。内部は、防音ガラスにより明るい静かな住環境が確保されており、窓から見える電車の走行が信じられないほどの静けさである。管理者及び職員は、居住者の一人ひとりと深く関わり、互いの信頼関係を構築すべく熱意を持って取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果を踏まえ、運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。防災訓練は、消防署と連携して1月に開催予定であり、緊急防災システムを導入している。外出支援については、季節性、新型インフルエンザの流行のため、自粛している状況であるが、人ごみを避けた公園などへの外出支援は健康上有効である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価票は、管理者と介護計画作成担当者、職員1名の参加により作成した。今回は時間的余裕がないため他の職員は参加できなかったが、日ごろのサービス提供時における自らの声かけや、態度を振り返る良い機会と捉え、介護の質の向上のためにも全員で取り組みたいところである。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、入居者、家族、地域包括支援センター職員、介護計画作成担当者、民生委員参加のもとで、2ヶ月に1回開催している。主な討議の内容は、ワクチン接種の援助などインフルエンザ対策や、現在、及び今後の活動内容について、また困難事例の対応などについても意見交換している。これらの取り組みにより、現在のところ新型及び季節性インフルエンザの発症者はいない。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>相談担当職員を配置し、また面会時にも家族の意見、希望を汲み取るよう積極的に声かけを行っている。意見箱は受付に設置していたが、破損のため現在は作成中であり、次回は掲示板の近くに移設の予定である。運営推進会議でも家族の意見は表出され難く、管理者は今回の評価に伴うアンケートでどのような意見が聞けるかに関心を寄せ、それらに対して取り組む意欲が感じられた。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>社会福祉関連事業に対する地域の理解が乏しく、地域との連携が得られ難い環境にあるが、近隣への挨拶を徹底し介護相談にも応じるなど働きかけている。今後は地域の老人会や、町内の行事に参加するなどして交流を深めていく予定である。</p>

(施設名)

グループホームフレンド天王寺

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が、地域の中でその人らしく暮らし続け、また地域に密着した尊厳のある暮らしが継続できるような支援を目指すことを理念として定めている。		理念は、来訪者を始め家族や、入居者、職員など人の目に触れる場所に掲示するのが望ましい。(提言により、掲示場所を相談室から玄関ホールに移された。)
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日頃からミーティング等で、入居者のその人らしい生活や、暮らしを支えるケアの意味をよく話し合い、現場でそれらを活かした取り組みをしている。		入居者への日々の声かけや態度、記録を見るなどして、理念を反映した支援が来ているか内省したり、話し合ってもらいたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣への挨拶を徹底し、介護相談にも応じている。今後は地域の老人会や、町内の行事にも参加したいと考えている。		入居者との散歩や買い物の際に、近隣の住民と互いに挨拶や言葉を交わしたり、老人会や行事に参加するなど地域交流を深めて欲しい。また、介護相談から更に発展して認知症の講習会開催など、今後の地域貢献にも期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を踏まえて、運営推進会議は2ヶ月に1回の開催を実施しており、消防署と連携する避難訓練は12月に実施の予定であったが、署の都合により来年1月に行く。但し、玄関の施錠は安全確保を優先し継続している。		自己評価は、全員で評価項目を検討していく中で、何が実施できており、どの分野が不足しているのか客観視できる良い機会と考える。入居者に提供するサービスの質の向上のために有意義に活用して頂きたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、併設の小規模多機能型居宅介護と共同で開催している。会議は地域の代表と地域包括支援センターの代表、入居者及び家族代表の参加を得て、現況報告と困難事例対応等の意見交換を行っている。</p>		<p>議事録に討議した内容や、参加者の助言・意見など具体的な記載が欲しい。また地域交流を深める中で市町村の担当者等立場を異にする人たちの参加が待たれる。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当者から地域の民生委員の紹介を得て、介護計画作成担当者が積極的にFAXなどで働きかけ、運営推進会議への参加要請に成功した。</p>		<p>市の担当者は転勤もあり連携が困難な面もあるが、運営推進会議への参加案内や議事録、評価の取組状況の報告等根気よく働きかけて繋がりを密に保つ努力を願いたい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>入居者の暮らしぶりや、健康状態、服薬管理など家族への連絡は、面会時または必要に応じ電話報告をしている。金銭管理については、本人及び家族の同意の下、預かり金方式で定期的に家族に出納内容を報告している。</p>		<p>服薬内容の変更や、介護保険の区分変更時等電話報告の場合は、聞き違いや、誤解が生じるおそれもあるので記録を取りたい。出納内容の報告時に個別便りを同封し、またホームでの暮らしぶりを紹介したホーム便りの発行が望まれる。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員により対応内容が異なると混乱をきたすので窓口を一本化し、相談・苦情対応職員を設置して意見を聞く機会を設け、スムーズに対応できるようにしている。意見箱の設置もしていたが、現在は破損して修復中である。</p>		<p>運営推進会議でも家族の意見は出にくいようである。今後は家族代表に働きかけて家族会を結成するなど意見を表出する機会を増やすよう尽力され、また修復中の意見箱の設置も早急に善処されたい。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員は入居者一人ひとりと馴染む努力をしており、欠員・交代時の入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている。運営者は、職場内を風通し良く、意見の出せる雰囲気作りをして、小規模多機能型居宅介護職員との交流を行い、離職者を最小限に抑える努力をしている。</p>		<p>これまで、職員の異動による影響はない様子であるが、今後も職員の交代時には引継ぎ期間を設けるなど、入居者に及ぼす影響に配慮願いたい。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5．人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>高齢者の尊厳保持、プライバシー保護、認知症ケア、感染症対策、事故対応手順などの様々な研修や指導に取り組んでいるが、未だ発展途上なところが多い。</p>		<p>職員の提供するサービスの質の向上のため、新人研修や、習熟度に応じた内部・外部研修を受ける機会を確保し、引き続き計画的に取り組んでいただきたい。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>天王寺区ではグループホームが他になく、同業者との交流はない。時間が許せば、大阪市のグループホーム事業所連絡会に参加することを考えている。</p>		<p>多忙ではあるが、大阪市のグループホームネットワークに参加し、相互訪問や困難事例の学習会など今後の交流の促進に期待する。</p>
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人及び、家族からの情報収集と話し合いを大切に、信頼関係を築いた上でサービスの利用を開始している。尚、必要に応じ男性は1週間、女性は2～3日の「お試し期間」を設け安心して入居できるように工夫している。</p>		<p>突然の住環境の変化は、認知症を患う高齢者にとって症状の悪化を招くおそれがある。地域密着型の特性を活かして、家族と散歩の途中立ち寄りなど、緩やかな環境変化に配慮願いたい。</p>
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は入居者が人生の先輩であるという尊敬の気持ちで接し、その場その場での会話を大切に、昔に経験された事や調理の工夫を学び支えあっている。</p>		<p>入居者が夫々の残存能力に応じて洗濯物を取り込んだり、畳んだり、手摺り拭きやモップかけなど職員と協働して支えあう関係を築いている。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の思いや意向については、常に把握するよう努めている。認知症により自分の意思表示が困難な場合には、家族の面会時や、前事業所からの情報を大切にして本人本位の支援を心がけている。</p>		<p>担当職員は、入居者一人ひとりの生活歴や心身の状況、意向を把握し従来どおりの自分らしい暮らしを継続できるように支援して頂きたい。</p>
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ガイドライン方式により、入居者が自分らしく暮らしていくために必要なニーズが、明確に示されている。本人、家族、関係者などの意見を反映して介護計画作成担当者と、職員がチームを組んで計画を作成し、家族に説明して承認を得ている。</p>		<p>「外泊をしたい。」「残存能力を活用して、ポータブルトイレで自分で排泄したい。」など本人の意向を反映した目標が設定されている。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は6ヶ月毎に、また心身の状況の変化に対応してその都度必要に応じた介護計画の見直しを行っている。その際は本人、家族、必要な関係者にも意見を聞き新たな介護計画を作成している。</p>		<p>介護計画の目標を設定しても、現状維持が精一杯の状況と思われる。しかし、「自尊心の回復」の為に、本人の意思を尊重しながら排泄記録を活用して、排泄パターンの把握や事前誘導をするなどし、オムツ外しへの取り組みに努力されたい。</p>
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>グループホームでの生活だけでなく、本建物の1階で行われている小規模多機能型居宅介護のサービスに参加し、体操やカラオケを楽しんだり展示物を作ったりして過ごす事もある。</p>		<p>今後も通院や外出、ディサービスへの参加など、その時々々の要望に応じた柔軟な支援を提供されたい。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用開始前からのかかりつけ医での受診をしたり、ホームの協力医とも連携した支援を行っている。口腔ケアについては、治療に関するアンケートを取り、本人及び家族の要望に沿って適切な治療を受けられるようにしている。</p>		<p>それぞれのかかりつけ医、ホームの協力医及び職員は互いに関係を築きながら、受診に関する情報の共有に努められたい。</p>
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>方針を統一する為に、入居時にアンケート調査を行っている。本人の意向を元に家族の要望等も聞き取り、医療機関とも連携し職員も含め全員で方針を統一し、書面に残している。</p>		<p>早期に方針を共有する体制が整えられている。今後もその時々本人や家族の意向を確認し、気持ちの変化や思いに注意を払いながら方針を共有してゆきたい。</p>
．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1．その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員は入居者に尊敬を込めた言葉遣いで接している。記録類は事務室に保管され、個人情報の取り扱いには気を付けている。</p>		<p>職員は入居者に対し、言葉掛けは丁寧で明るい態度で接している。今後も入居者一人ひとりに対して尊重し、優しい態度で接していかれる事を願う。</p>
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりの体調や精神面を把握し、その時々本人の意向を尊重し支援している。</p>		<p>本人が望む過ごし方がよく把握され、支援されている。新聞を読んだり読書をされる入居者もおられ、馴染みの習慣が生活に溶け込んでいて喜ばしく感じた。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューを食堂に掲示し、話題のひとつとしている。現在準備や片付けは職員がしているが、今後は出来る範囲で一緒に行きたいと考えている。		出来る範囲で食事の準備や片付け、テーブル拭きなどを手伝ってもらう事は良い事である。小さな作業でも入居者が役割を持つ事は張り合いや自信をつける。職員も言葉掛け等に工夫をし、入居者一人ひとりの生活の向上をめざし支援されたい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者一人ひとりの希望に合わせ、気持ちよく入浴できるように支援している。介護度の高い入居者とは職員も共に入ったり、1階の特浴での入浴支援などそれぞれに合った支援をしている。		入浴は、各人の生活習慣によるところが大きいものである。本人や家族から好みをよく聞き、入浴が楽しいものとなるようそれぞれ入居者に合った支援を入浴時間だけにとらわれずに行いたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりが楽しみ事や出番を見い出せるよう、場面作りなどの支援を行っている。 (洗濯物の取り込みやたたみ、下膳、モップかけ、新聞取りなど)		生活の中での役割支援だけでなく、それぞれの生活歴に沿った楽しみ事や気晴らしの支援も進んで行って頂きたい。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の公園や神社等に出掛け、季節の変化を感じてもらったり、近くのスーパーやデパートに買い物に出掛けたりしている。今年は新型インフルエンザの影響もあり、外出を控えて欲しい旨の家族からの要望もあり、散歩は減っている。		季節を感じたり、ストレスの発散、また五感を刺激する為にも外出支援は重要である。現在外出支援が滞っている件に関しては、新型インフルエンザの感染についての情報を提供し、家族にも理解してもらう事は大切と考える。天候や気候に気を配りながら、散歩等の外出支援を積極的に行いたい。車椅子での外出支援も大いに望みたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアについての理解はあるが、小規模と併設の為(玄関が共用)、玄関の鍵は常時施錠している。		鍵をかけないケアについて、全職員が今一度認識し、見守りの工夫をするなどして鍵をかけずに過ごせるよう取組まれたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡網を作成し、年2回の避難訓練を年間計画に取り入れている。消防署による設備点検を平成21年11月に終え、22年1月に消防署と協働で消防訓練を予定している。又、スプリンクラーも22年設置予定である。緊急災害用直通電話が設置されている。		非常災害時の備蓄品については、飲料水と医薬品のみでなく、今後は食料品や防寒具、おむつ等もまとめておきたい。広域避難場所（大阪城公園）は距離があるため、消防署に確認し、取り決められた場所を家族他関係各所に通知しておくことと良い。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事の摂取量や水分摂取量を記録している。朝食はパン食、昼は高齢者用宅配給食弁当の利用、夜は食材配達業者による配達食材にてホームで作り提供している。		朝・昼・晩とそれぞれの場所から提供しているが、1日をトータルした栄養バランスや摂取量も必要と考える。区の管理栄養士に目を通してもらう事で安心出来るのではないかと。食事の摂取量については、何を好んで食べているか・何を残しているかなどを記録に残しておくことと病気になる時の資料となり得る。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホームが存する2階・3階は、近鉄電車が通り過ぎる眺望であるが、防音ガラス効果で騒音は遮られている。採光も良く、ソファやテーブルが違い勝手良く配置されている。1階玄関には、観葉植物や季節（クリスマス）の飾り物、又輸入物の椅子が置かれアジアンテイストの空間が印象的である。		入居者が多くの時間を過ごす共用空間であることから、入居者の希望等も取り入れて過ごし易い生活空間の場を提供されたい。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者一人ひとりに合わせた居室の環境作りを心掛け、居室には使い慣れた家具や生活用品、装飾品などを持ち込み、安心して過ごせる場所となるよう支援している。		各居室に備えられた白いロッカータンスは、清潔感を漂わせすっきりと印象付ける。が、持ち込の少ない入居者の部屋はその分あたたかみが少なく感じられる。そのような居室には、職員も一緒に手伝うなどして、馴染みの物の調達に気を配られたい。

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。